

令和4年5月27日(金)

第1回 進路説明会



練馬区立開進第二中学校

3年 組 番 氏名: _____

【目次】

表紙・目次

学校長より

～進路選択により、生徒が明るい未来を切り拓くために～

進路説明会の目的

1. 義務教育最終学年として
2. 入試の仕組み
3. 開進第二中学校の学校推薦について
4. 昨年度の特徴
5. 私立高校について
6. 都立高校について
7. 調査書について
8. その他の進路先
9. 保護者の方へのお願い
10. 今後の予定

【第1回進路説明会の目的】

- ・義務教育最終学年としての心構えをもち、計画的に行動できるようになる。
- ・自分の進路実現のために、1年間を見通して必要な情報を収集できるようになる。

1. 義務教育最終学年として

(1) 進路選択に向けて

中学3年生になり、卒業後の進路について考え、決定する時期になりました。「進路」とは、進学(高等学校等に入学すること)だけではありません。就職という選択肢もあります。自分自身の進む道について、自分で考え、最善の道を決定していきましょう。

そのためには、「なぜ高校へ進学するのか」「なぜ専門的な分野に進むのか」という自分の目的をはっきりさせることが大切です。今までの経験を振り返り、自分への理解を深め、将来について考えましょう。また、様々な情報を収集し、自分の希望を叶えるための進路を選択していきましょう。

(2) 家庭での話し合いについて

多くの中学3年生にとって、卒業後の進路を決定することは、人生で初めての大きな選択です。自分の希望や状況を保護者の方に伝え、助言を聞きましょう。家庭の中でしっかりと話し合いをもつように心がけてください。そして、家庭全体で総合的に判断し、納得できる進路を選択しましょう。

(3) これからの中学校での進路学習

① 進路希望調査と三者面談

6月20日(月)に「第1回進路希望調査」を配布します。保護者の方と十分に話し合ったうえで、記入し7月1日(金)までに提出しましょう。これに基づいて、夏季休業中に第1回三者面談も行います。そこで、みなさんの進路の希望や状況、学校での取り組みについて確認し、夏休みにやるべきことを明確にします。

また11月中旬の「第4回進路希望調査」に基づく12月上旬の三者面談で、進路希望先(志望校等)を最終決定します。

② 復習確認テスト

定期考査以外にも、6月27日・9月・11月(予定)に復習確認テストを行います。試験範囲は1・2年生の学習内容も含めた総合的な問題です。現時点での学力を把握し、今後の学習や進路選択に活かします。また、三者面談の資料としても活用します。

③ 配布物・掲示物

学校が発行する「3学年だより」「進路だより」は必ず読みましょう。そして、家庭へ持ち帰り、保護者の方にも見てもらいましょう。進路情報や卒業に向けてのお知らせなど、重要な情報が掲載されています。また、3学年の廊下には、ポスター等で多くの進路情報が掲示されます。

④ 提出物

提出物は期限を厳守して提出しましょう。高校等を受験する際には、受験校へ「願書」等を提出する必要があります。提出期限を過ぎれば受理されず、受験することができません。また、受験する生徒全員分を中学校がまとめて高校へ提出することもあります。一人の油断が、全体へ大きな影響を与えます。余裕をもって準備し、提出しましょう。

2. 入試の仕組み

【私立高校】

①(私立)推薦	<ul style="list-style-type: none"> ・第1志望であり、中学校長の「推薦」が必要。合格したら、他の高校は受験できない。 ・高校ごとに「推薦基準」があり、それを満たしている受験生が出願できる場合が多い。 ※推薦基準を満たさない場合には、「第1志望優遇」制度がある場合もある。
② 併願優遇	<ul style="list-style-type: none"> ・第1志望の高校に不合格の場合、必ず入学することを前提として出願する ※第1志望は「公立高校のみ」や「私立高校でも可」など高校ごとに条件が異なる。 ・推薦と同様、「基準」が設けられている。
③ (私立)一般	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの私立高校が2月中旬に入試を行う。 ※受験日が数日設定され、選択できることが多い。 ・英語、数学、国語の3教科の学科試験と面接を行うことが多い。

【都立高校】

④(都立)推薦	<ul style="list-style-type: none"> ・第1志望であり、中学校長の「推薦」が必要。 ・合格した場合には、必ず入学する。また、他の高校は受験できない。 ・「一般推薦」の他に「文化・スポーツ等特別推薦」がある。
⑤(都立)一般	<ul style="list-style-type: none"> ・2月下旬の第一次募集(前期募集)と3月上旬の後期募集(第二次募集)がある。 ・合格した場合には、入学する。

・①④の推薦については、基本的に中学校長による学校「推薦」が必要です。普段の学習や生活態度の状況をみて判断することになります。詳細については次の頁をご参照ください。

また、推薦は【私立高校】と【都立高校】のうち、いずれか1校のみに限って出願することができます。

・東京にある【私立高校】【都立高校】以外にも、【国立の高校】【国立・都立・私立の高等専門学校^(高専)】なども受験日が重ならなければ受験することができます。さらに、千葉・埼玉・神奈川など全国の【私立高校】を受験することも可能です。

《志望校入学までに提出必要な書類・手続き》

例)都立高校の推薦入試と私立高校の併願優遇を利用し、都立高校に合格し入学する場合

中学校に提出	都立高校に提出	私立高校に提出
<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査 ・調査書記載事項確認書 ・推薦・併願優遇願い (・受験写真の撮影と購入) ・調査書作成願い ・卒業証書の氏名等の確認書 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己PRカード ・受検料の納付 ・都立推薦受検の願書 ・入学誓約書 ・入学金の納付 ・キャリアパスポート 中学校が作成 推薦書・調査書・健康診断票等 	<ul style="list-style-type: none"> ・受験料の納付 ・私立^(併願優遇)受験の願書 ※オンラインで作成し、その後郵送で提出 という場合もあり (・入学金延納願い) 中学校が作成 調査書・健康診断票等

※都立高校の願書は中学校で配布されます(例外あり)が、私立高校は各自で入手し準備する。

3. 開進第二中学校の学校推薦について

推薦入試の受験を希望する生徒については、全教職員による推薦会議を開き、承認を得られた上で、校長が推薦をするかどうかの最終的な判断をします。

その際、次の点を特に検討し、総合的に判断します。

【基本方針】

3年間を通して、学校生活・学業に真摯に取り組んできたかを総合的に判断して、
推薦するものとする

【推薦の基準】

- ① 進学を希望する目的が明確であり、その理由が適切であること。
- ② 志望する高校が第一志望であり、推薦入試により合格した場合には、入学手続きを行い、入学すること。
入学許可の辞退や、他の高校等の受験はしない。
- ③ 中学校での学習態度と生活態度が良好であり、開二中の推薦者として恥じない行動がとれること。
- ④ 志望する高校から示される条件等に沿う生徒であること。

※都立高校の場合には「本校の期待する生徒の姿」が公表される。私立高校の場合には、その高校独自の基準があり、学校説明会で情報収集を行い、高校の個別相談で事前に高校の先生に自分が条件(成績や出席数等)に沿っているかを確認する必要がある。また私立高校では個別相談したこと自体が、推薦入試を受験するための条件となっていることもある。

まず初めに、推薦による入試制度は、誰でも希望すれば利用できるものではありません。開二中の学校長が責任をもって人物保証するものであり、中学校と高校等の信頼関係で成り立っています。この信頼関係は、今までの卒業生の実績の積み重ねによって得られたものです。推薦入試を利用する場合には、残りの中学校生活で努力を継続することはもちろんのこと、高校入学後においても開二中生の代表生徒としての行動が求められます。

【自分を振り返ろう】

- しっかり勉学に励み、開二中の生徒として恥じない行動をしている
- 学校生活の規則がしっかりと守れている(生活態度やマナー、言葉遣い、落ち着いた学校生活など)
- 授業や課題(宿題、提出物も含む)に積極的に取り組んでいる
- 欠席・遅刻・早退などの出席状況が良好
- 当番活動(日直・給食・清掃)、係活動、委員会活動・特別活動・各行事・校外活動等に積極的に取り組んでいる
- 中学生として禁止されている、法に触れる行為を行わない

後になって悔やまないために、どのような入試制度を利用するかも含め、進路選択について、ご家庭で保護者の方とよく話し合ひましょう。

「推薦入試で早く進学先が決まると気持ちが楽だから」と安易に推薦入試を選ばないようにしましょう。高校入学後、すぐに授業のレベルに対応できるようにするため、そして、さらなる成長につなげるためにも、中学校卒業まで着実に学力を高めるという意識が大切です。

4. 昨年度の特徴 近年の都立入試の変更点

(1) 私立高校

① 学校説明会・入試相談会のオンラインでの実施の増加(予約制で人数を減らした開催が目立つ)

第一志望の高校でも、なかなか予約が取れずに、困っている先輩がいました。

⇒早めの情報収集、予約が必要です。

⇒オンラインで説明会に参加したとしても、実際の通学経路や高校周辺を歩いてみるなど確認も必要です。

登校の練習をせずに受験当日を迎えることがないようにしましょう。

② オンライン出願の高校が増加

インターネット上で入学願書や受験票等を事前に作成し、送信します。その後印刷し、学校が作成した調査書とともに郵送するという方法が多くみられました。

⇒学校で配布された Chromebook はサイトの制限や通信速度の上限があります。印刷もできません。ご家庭で、インターネットとそれに接続する端末、印刷の方法を確保する必要があります。

③ 受験日に体調不良や新型コロナウイルス等でやむを得ず欠席する場合の対応は、学校によって様々です。

昨年度は受験の予備日を設定している高校、面接や集団討論を取りやめる高校などもありました。一般入試の試験範囲も学校によって異なりました。

⇒受験日当日まで、受験校のホームページ等を確認し、最新の情報を基に行動する必要があります。

④ 通信制高校の多様化

中学校3年生の進学志望者のうち通信制高校を第1志望とする生徒が今までよりも増加しています。それに伴い、様々な特色をもつ通信制高校が新設されました。

⇒通信制高校では、通学のスタイル、学習する内容(学科)、行事やスクーリング、部活の有無などは本当に多様です。学校の特色や卒業後の進路先などを十分に調べ検討しましょう。

(2) 都立高校 ※今年度の詳細は未定です。今後発行される、「令和5年度東京都高等学校募集案内」を参照ください。

① 推薦に基づく選抜では、「集団討論」の中止(昨年度の内容です)、「実技」内容や時間の縮小

⇒推薦入試の平均倍率が2.54倍と前年度より少し減少していました。

② 出願方法の変更

推薦に基づく選抜、学力検査に基づく選抜の第一次募集および分割前期募集の出願においては、前年度まで生徒が志望校に書類を持参していましたが、中学校が高校ごとに書類を集約し郵送で出願する流れになりました。また、インターネットによる合格発表が行われました。

⇒都立高校を受検するすべての生徒の書類がそろわなければ、郵送することができません。書類をバッチリで準備する必要があります。

③ 新型コロナウイルスに感染また濃厚接触はした場合の詳細は今後示されます。

5. 私立高校について

(1) 学校・学科の種類

- ・普通科、工業科、商業科、体育科、外国語科などだけではなく、演劇科、航空工学科など様々な特色のある学科があります。
- ・特進コースや理数コース、国際英語コースなどを設けているところもあります。

(2) 受験できる学校数

- ・推薦受験は、「私立高校または都立高校」の1校のみです。
- ・一般受験は受験日が重ならなければ何校でも受験できます。東京都以外の高校の受験も可能です。

(3) 私立高校の選抜方法

① 推薦入試

- ・校内での推薦会議で、推薦を受けるに値する者であると認められていることが条件です。
- ・各私立高校の「基準」もあり、それをクリアしていないと受験資格がありません。
- ・推薦入試で合格した場合はその高校に必ず入学しなければなりません。
- ・私立高校の推薦入試は12月15日以降に各私立高校と中学校間で「入試相談」が行われます。
※入試相談とは、推薦受験を希望する生徒一人一人について、基準を満たしているか等を中学校の教員が高校に赴き確認するものです。
- ・推薦入試では主に、「調査書」、「面接」、「作文」をもとに総合成績で判定されます。近年、学力を測る「適性検査」を導入する高校が増えてきました。
- ・推薦入試を利用するに際し、学校見学や高校説明会などに参加しておくことを条件にしている私立高校もあるので注意が必要です。
- ・推薦入試は中学校と私立高校の信頼関係がなければ維持できない制度です。開二中の推薦基準を満たしている人物であることが絶対条件です。入試のときはもちろんのこと、入学後に態度が悪い場合等は、本人だけでなく、次年度以降、開二中生がその高校の推薦を一切打ち切られる場合もあります。

② 一般入試

- ・学力テスト(主に国語・数学・英語の3教科)、「調査書」、「面接(グループまたは個人)」などをもとに総合成績で判定されます。
※音楽科や美術科では夏休みや冬休みに講習会を設けている高校もあり、それを受講しておく、高校の様子および自分の実力が測れます。

★ 併願優遇制度(一部例外あり)

- ・併願優遇制度を利用する場合も「入試相談」が行われますので、校内での推薦会議で推薦を受けるに値する者であると認められていることが条件です。
- ・都立高校が第1志望で、併願優遇制度を利用する私立高校が第2志望であることが条件のことが多いです。
- ・各私立高校で「基準」があり、それを満たしていないと受験資格がありません。
- ・この制度を利用した場合、一般受験をした生徒よりも合格の可能性が高くなります。ただし、『第1志望の高校が不合格の場合はその私立高校に入学しなければならない』という条件が付きます。

★ 第1志望優遇制度

- ・その私立高校が第1志望でも、高校等の推薦基準を満たしていない場合に、利用できる制度です。「入試相談」が行われますので、校内での推薦会議で推薦を受けるに値する者であると認められていることが条件です。
- ・この制度を利用して『合格した場合には、必ずその私立高校に入学しなければならない』です。
- ・優遇の内容が、一般入試の得点に「加点する」という場合が多く、必ず合格するとは限らないので、他の高校の併願受験も検討する必要があります。

(4) 願書について

- ・志願者が自分で志望高校へ行き入手します。(購入する場合があります)。学校説明会等で入手すると良いでしょう。また、通学経路や家からの所要時間も確認しておきましょう。願書は11月下旬頃から発売されます。
- ・高校によって異なるので、募集要項をよく読み、必要な書類や手続きを確認しましょう。
- ・願書以外に、「調査書」、「推薦書」、「(入学金)延納願」など中学校の担任等が記載する書類も入っています。

※願書を入手しに高校へ訪問するときからすでに入試は始まっていると思ひましょう。

標準服で行くことはもちろん、服装・頭髮に細心の注意を払ひましょう。乱れた服装や髪型を注意されることもあります。

※願書に記入する際には鉛筆で薄く下書きをして、担任の先生に点検してもらひましょう。

点検後、清書し提出に備え、折ったり汚したりしないようにしまひましょう。

※家庭で記入するものと担任が記入するものを間違えないように注意しまひましょう。

(5) 手続きについて

- ・合格した際の手続きの締切日も事前に調べておく必要があります。特に、都立高校を第1志望にしている人は受験する私立高校が都立高校の発表日まで入学金の納入を待ってくれるか否かを必ず確認しておくことが大切です。
- ・手続きの締切日を都立高校の発表日としている高校もありますが、『延納願』を提出しなければ、入学金納入を待ってくれない高校もあります。

※入学金等の納入については、全額払い込みが必要な高校、一部払い込みが必要な高校、全額払い込みが必要であるが都立高校の合格書を見せると全額(または一部)返還してくれる高校など様々であるので募集要項をよく読みまひましょう。また、成績優秀者や特技が優秀な者に対し授業料や入学金などの一部もしくは全額を免除する特待生制度や独自の奨学金制度がある高校も多数あります。

6. 都立高校について

(1) 学校の種類 ⇒例年、夏休み前に「東京都立高等学校募集案内」が配布されます。参照ください。

- ・普通科だけでなく、様々な専門学科があります。また、全日制だけでなく登校時間を選択する定時制もあります。
- ・入学する目的に合わせて、大学進学に力を入れている「進学指導重点校」、自分の個性や進路希望に合わせて科目を選ぶ「総合学科」、学年制ではなく必要単位を習得して卒業する「単位制」、これまで自分の能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒のための「チャレンジスクール」、小中学校の学びなおしを含めて生徒をサポートする「エンカレッジスクール」など、多様なカリキュラムの高校があります。

(2)都立高校の選抜方法

① 推薦に基づく選抜(推薦入試)

- ・校内での推薦会議で、推薦を受けるに値する者であると認められていることが条件です。
- ・学力検査はありません。中学校長からの「推薦書」、「調査書」、「面接(集団討論)」、「小論文(作文)」、(学校により、実技試験等)をもとに総合成績で判断されます。
- ・合格した場合はその高校に必ず入学しなければなりません。
- ・全体的に倍率の高い学校が多いです。
- ・推薦受検が不合格となった場合でも、一般入試を受検することができます。

② 学力検査に基づく選抜(一般入試) <第一次募集・(分割前期募集)、第二次募集・(分割後期募集)>

【全日制課程】

- ・第一次募集および分割前期募集については、学力検査(国・数・英・社・理の5教科)の成績、各中学校から提出される調査書をもとに総合成績で判断されます。
- ・学校によっては、面接、作文(小論文)、実技検査を実施する場合があります。学力検査の成績と調査書点の比は、平成28年の入試より原則『7:3』となっています。

※一般入試の募集人員をあらかじめ分割し、第一次募集期間に募集する学校(分割前期募集)と第二次募集期間に募集する学校(分割後期募集)があります。(田柄・練馬工業ほか)

※第一次募集をする学校は、合格者が入学手続きをしても定員に満たない場合には第二次募集を行います。逆に、第一次募集で定員に達した高校は、第二次募集は行いません。

- ・第二次募集および分割後期募集については、学力検査(国・数・英の3教科)の成績、各中学校から提出される調査書をもとに総合成績で判断されます。学校によっては、面接、作文(小論文)、実技検査を実施する場合があります。

学力検査の成績と調査書点の比は平成28年の入試より原則『6:4』となっています。

【定時制課程】

- ・第一次募集の試験科目は、3～5教科(国・数・英・社・理の中から)で高等学校が決めます。学力検査と調査書の比率は『7:3』または『6:4』です。
- ・第二次募集は国・数・英の3教科となります。学力検査と調査書の比率は『6:4』または『7:3』です。第一次募集および第二次募集ともに面接が実施されます。学校によって、作文(小論文)、実技検査を実施する場合があります。

※「第一次募集」を行う高校では、第二次募集が必ずあるとは限りません。

(3)願書・受検料納付書について

- ・都立高校の願書・受検料納付書は中学校で配布します。(一部例外あり)
- ・必要事項を記入後、銀行または郵便局で受検料を支払い、願書提出の運びとなります。

7. 調査書点(内申点)について

(1) 素内申と換算内申

- ・内申点とは9教科の成績(5段階の評定)の合計点のことを指します。
- ・都立高校(推薦入試)と私立高校(推薦入試・一般入試)は素内申(A)を用います。
※ただし、観点別学習状況の評価を用いる都立高校(推薦)もあります。
- ・都立高校(一般入試)は換算内申(B)を用います。

★内申点の計算の仕方

(例)9教科全て(オール)4の場合

$$A = \text{素内申} : 9 \text{教科} \times \underset{\text{評定}}{4} = \underset{\text{評定}}{36} \text{ [点]} \Rightarrow 9 \text{教科をそのまま足した数字}$$

$$B = \text{換算内申} : 5 \text{教科} \times \underset{20}{4} + (4 \text{教科} \times \underset{32}{4} \times 2) = \underset{32}{52} \text{ [点]}$$

⇒ 国・数・社・理・英はそのまま足した数字(20)

音・美・体・技家は足して2倍した数字(32)の合計

※実技教科は換算内申で2倍した値となる。

- ・受検(受験)用に出される成績は、「4月から12月まで」の総合成績です。
- ・都立高校では、その成績を資料として見ます。
- ・私立高校では、その成績を資料にする高校がほとんどですが、1、2年生の学年成績と合わせて3学年分を参考にする高校や、12月の「入試相談」のときに3年1学期時点での成績を参考にする高校もあります。

※受験間際になって後悔しないためにも、授業を大切に取り組みましょう。

※定期考査だけではなく、授業態度(授業内容を深める意見、発言、積極性等)、小テストや提出物なども評価には加味されます。

※実技教科では、作品の提出や実技テストが評定に大きく影響しています。

(美術や技術・家庭科の作品の未提出、音楽での実技の苦手意識、体育の実技等での安易な見学が、評価の低下につながる場合があります。要注意です。)

※授業への取組が不十分だった(見学、未提出、授業態度等)の結果、成績が想定より低くなり愕然とするケースも見られます。注意しましょう。

(2) 調査書について

- ・受験の際に中学校から高校へ送られる資料のことです。
- ・内容は、氏名・住所・生年月日・成績(内申)・学習の記録・諸活動の記録・健康の記録などがあります。

※諸活動の記録とは、委員会活動・部活動・ボランティア活動等の記録のことです。

(諸活動の記録については、事前に皆さんへ今までの活動内容を確認しますので、3年間の委員会や部活動の功績、取得した資格、課外活動などで取った賞などを記録しておきましょう。)

8. その他の進路先

(1) 都立産業技術高等専門学校(都立産技高専)、国立高等専門学校(国立高専)、(私立)サレジオ高等専門学校

- ・卒業までの5年間で、工業に関する専門的な知識の修得とともに、実践や体験を重視したものづくり教育を行う学校です。

(2) 専修学校および各種学校について

- ・修業年限はさまざまです。大学の受験資格が得られる学校、通信制高校との提携により、高校卒業の資格が得られる学校などもあります。

(3) 職業能力開発センター(旧職業訓練校)について

- ・専門技術の習得を目的とした施設です。授業料は無料、教科書代は自己負担になります。新たに職業に就きたい人、求職中の人、転職希望の人が募集の対象で、募集人員は多くはありません。科目によりますが年に4～8回募集があります。修業年限は科目により6ヶ月、3ヶ月、2ヶ月と様々です。

例)都立中央・城北職業能力開発センター板橋校 令和4年4月入学校募集期間12月6日～1月11日 科目:機械加工科 期間:2年間

(4) 就職について

- ・就職する場合は、ハローワーク池袋(池袋公共職業安定所)を介して進めていきます。
- ・近年、中卒者に対する求人は無いに等しく、職業の選択の余地はほとんどありません。

6月…求人受付開始

11月…求人一覧表作成、提供および就職希望者の職業相談(ハローワーク・本人・保護者・学校の四者面談、適性検査、職業講話の実施)

12月…応募書類の作成および提出(職業相談票、写真添付、校長印押印)

1月…事業主に対する応募書類の紹介、選考、採用内定、都立技術専門学校への入校斡旋

2月…未就職者斡旋、社会人・職業人になるための指導

9. 保護者の方へのお願い

(1) 提出物について

- ・これから進路についての提出物や書類を提出する機会が多くあります。中学校で指定した提出期日に遅れると書類作成等に支障を来し、その結果、高校への提出期日に間に合わなくなるおそれがあります。くれぐれも、提出期限は厳守していただきますよう、お願いします。

(2) 規則正しい生活習慣および服装・身だしなみ・マナーについて

- ・朝食をしっかり摂り、時間に余裕のある登校にご協力ください。8:20朝読書開始です。
- ・登校の際、服装・身だしなみをご家庭でもチェックしてください。
- ・家庭でのSNSルールを話し合い、スマートフォンやタブレットの適切な利用をお願いします。

(3) 子どもの能力・適性を理解する

「志望校の選び方」で申し上げたように、進路の最終決定を行うのは生徒本人と保護者です。

「保護者の考えのみ」、「子の考えのみ」「塾に勧められるがまま」に志望校を決定せず、家庭内で十分に話し合いの時間をもち、納得のいく志望校を選んでください。

(4) 学校との連絡は密に

- ・わからないことや心配なことはご相談いただき、最もよい方向を見出していきましょう。
- ・相談がある場合はできれば事前に中学校へご連絡をいただくとありがたいです。

10. 今後の予定

※斜体の日には、本年度の日程がまだ決定していません。昨年度の日程を参考に掲載してあります。決定しましたら、お知らせいたします。

	進路に関する日程	学校行事
5月	27日(金) 第1回進路説明会	
6月	20日(月)～7月1日(金) 第1回進路希望調査 22日(水)～24日(金) 1学期期末考査(9科) 27日(月) 第1回復習確認テスト	4日(土) 運動会
7月	21日(木)～29日(金) 三者面談	
	高校見学会・説明会の参加 (進路決定までは随時)	夏季休業 21日(木)～8月31日(水)
9月	上旬 第2回復習確認テスト	生徒会選挙
	上旬 第2回進路希望調査	
	29日(木)・30日(金) 2学期中間考査(5科)	
10月	7日(金) 第2回進路説明会	連合音楽会 合唱コンクール
	下旬 第3回進路希望調査	
	26日(水)～11月2日(水) 第2回三者面談	
11月	上旬 第3回復習確認テスト	
	16日(水)～18日(金) 2学期期末考査(9科)	
	下旬 第4回進路希望調査 27日(日) 英語スピーキングテスト	
12月	上旬～ 校長・副校長等による面接、 (集団討論)練習開始	上旬 受験用写真撮影 冬季休業 26日(月) ～1月10日(月)
	2日(金)～9日(金) 第3回三者面談	
	15日(木)～ 私立推薦入試相談	
1月	※上旬 都内私立推薦出願	学習発表会
	※12日頃 都立推薦出願	
	※下旬～ 都内私立推薦入試	
	※25日頃～ 都内私立一般出願	
	※26日・27日頃 都立推薦入試 ※31日～ 都立一般出願	
2月	※2日頃 都立推薦入試発表	
	※10日頃～ 都内私立一般入試	
	※21日頃 都立一般入試(前期・第一次募集)	
	24日(木)、25日(金) 学年末考査(5科)	
3月	※1日頃 都立一般入試発表	18日(金) 卒業式
	※上旬～ 都立分割後期、第二次入試	

